

エコアクション21 環境報告書レポート



2025年8月21日発行

対象期間
2024年8月1日～2025年7月31日



有限会社高橋建設

Takahashikensetsu Ltd.

ISO 9001認証

〒785-0503 高知県高岡郡津野町芳生野甲162-1

T E L : 0889-62-3109

F A X : 0889-62-3361

E-mail: takaken.642@car.ocn.ne.jp

目 次

1. 組織の概要 …1
2. 対象範囲(認証・登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日 …2
3. 環境経営方針 …3
4. 環境管理組織体制 …4
5. 環境経営目標 …5
6. 環境経営計画 …6
7. 環境経営目標の実績 …7
8. 環境活動計画の取組結果とその評価 …8
9. 次年度の環境経営計画 …9
10. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無 …10
11. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果 …11
12. 環境配慮工事の事例 …12,13



吉村虎太郎
天保8年(1837)4月18日、高知県
高岡郡芳生野村に生まれる。
土佐藩の庄屋であったが尊攘
思想に傾倒して土佐勤王党に
加盟。平野国臣らが画策する浪
士蜂起計画(伏見義挙)に参加
すべく脱藩するが、寺田屋事件
で捕縛されて土佐に送還され投
獄される。釈放後、再び京都へ
上り孝明天皇の大和行幸の先
駆けとなるべく中山忠光を擁立
して天誅組を組織して大和国で
挙兵するが、八月十八日の政
変で情勢が一変して幕府軍の

1. 組織の概要

【事業所名】

有限会社 高橋建設

【代表者氏名】

代表取締役 高橋幸人

【会社所在地】

本社・倉庫 〒785-0503 高知県高岡郡津野町芳生野甲162番地1
資材置場 〒785-0503 高知県高岡郡津野町芳生野甲字下野

【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

環境管理責任者氏名	専務取締役	川田 博史
連絡先担当者	取締役	高橋 伸幸
TEL : 0889-62-3109		
FAX : 0889-62-3361		
E-mail : takaken.642@car.ocn.ne.jp	事務局	
	takahashi.642@juno.ocn.ne.jp	環境管理責任者

【事業活動の内容】

土木建設業(主に高知県及び津野町発注の道路等の工事を行っています。)

建設業許可	特定建設業
許可番号	高知県知事許可(特-5)第642号
許可年月日	令和6年3月25日
建設業の種類	土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、鋼構造物工事業、石工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業、管工事業、造園工事業、解体工事業

【事業規模】

昭和28年1月30日 法人化(昭和41年3月22日)

資本金	20,000千円
売上高	172,370千円(決算期日令和7年7月31日)
従業員数	12人
事業所敷地面積	768.63m ² (倉庫含む)
事業所延べ床面積	171.86m ²
倉庫延べ床面積	112.00m ²



2. 対象範囲(認証・登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲(認証・登録範囲)】

有限会社 高橋建設 全社

全組織

「建設業」(土木工事業、とび・土工工事業、石工事業)

【環境活動レポートの対象期間】

2024年8月 ~ 2025年7月

【環境活動レポートの発行日】

2025年8月21日

【次回の環境活動レポートの発行予定日】

2026年8月

【作成責任者】

環境管理責任者 専務取締役 川田 博史



当社が、近自然工法により既設堰を取壊し、魚道を廃止し、川底を自然な形状に掘削し、鮎の遡上を促進した。

四万十川支流北

3. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

有限会社 高橋建設 は、四万十川源流地域を拠点に事業活動を行っている企業として、事業活動に伴う環境への影響を自覚し、環境負荷の低減を図り、全社で自主的・積極的に、環境保全活動に取り組み自然と共生する豊かな地域環境の創造に努めます。

＜行動計画＞

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- ① 環境に配慮した工法の推進に努めます。
- ② 電力・車両及び重機燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ③ 水、紙等、資源やエネルギーの使用量を低減します。
- ④ 廃棄物の排出量を削減し、再利用及びリサイクルに取り組みます。
- ⑤ 事務用品のグリーン購入や環境製品の使用を推進します。
- ⑥ ロードボランティア活動に取り組み、地域環境の向上に努めます。
- ⑦ 生物多様性を配慮します。
- ⑧ 環境経営に継続的に取り組み環境負荷の低減に努めます。

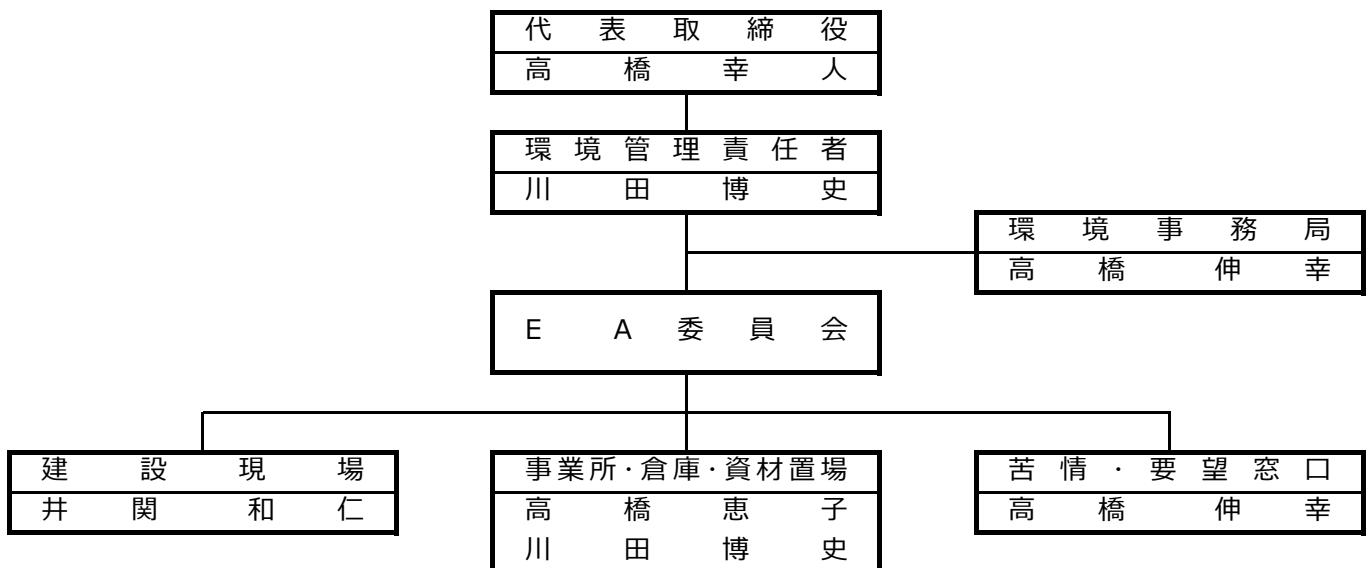
2. 環境関連法規制や条例等を遵守します。

3. 全社員に環境経営方針を周知徹底するとともに、環境経営レポートを作成し社外へ公表します。

制定日： 2010年12月25日

有限会社 高橋建設
代表取締役 高橋 幸人

4.環境管理組織体制



環境管理システム役割権限表

役割・責任・権限	
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
各部門長	
建設現場	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した材料・工法を提案・施工を実施 ・各重機・車両の燃料使用量を整理記録し報告 ・建設現場で発生する産業・一般廃棄物量を整理記録し報告 ・環境関連法規・条例を全作業員に周知し作業実施 ・自事業場の従業員に対する教育訓練の実施 ・自事業場の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理
事業所・倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ・電気・水道の使用量を整理記録し報告 ・一般廃棄物量を整理記録し報告 ・環境関連法規・条例を全従業員に周知 ・不測の事態があれば対応し、その旨を記録
苦情・要望窓口	
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21を把握し、環境保全活動に参加 ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 ・環境関連法規・条例を遵守し作業実施

5. 環境経営目標 (2024年度)

(1) 単年度環境経営目標

	単位	基準値 (2010年～2019年の平均値)	2024年度		
			2024年8月～2025年7月	目標	基準値比
電力使用量	kWh	8,750	8,400	95%	
ガソリン使用量	ℓ	6,240	5,928	95%	
軽油使用量	ℓ	25,000	23,750	95%	
灯油使用量	ℓ	870	853	98%	
LPG使用量	kg	5.0	4.8	95%	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	90,000	85,500	95%	
一般廃棄物排出量	kg	170	162	95%	
産業廃棄物排出量	t	600	570	95%	
用水使用量	m ³	60	57	95%	
環境に配慮した製品・工法の推進	件	全現場	全現場	全現場	
社会貢献活動	件	10	15	+5件	

注)・社会貢献活動…ロードボランティア、自治体の環境美化活動への積極的な参加

- ・化学物質の使用はない為、目標値を設定していません。

(2) 中長期環境経営目標

	単位	基準値 (2010年～2019年の平均値)	2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
			目標 (基準値比)							
電力使用量	kWh	8,750	8,225	94%	8,138	93%	8,050	92%	7,963	91%
ガソリン使用量	ℓ	6,240	5,866	94%	5,803	93%	5,741	92%	5,678	91%
軽油使用量	ℓ	25,000	23,500	94%	23,250	93%	23,000	92%	22,750	91%
灯油使用量	ℓ	870	818	94%	809	93%	800	92%	792	91%
LPG使用量	kg	5.0	4.7	94%	4.7	93%	4.6	92%	4.6	91%
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	90,000	84,600	94%	83,700	93%	82,800	92%	81,900	91%
一般廃棄物排出量	kg	170	160	94%	158	93%	156	92%	155	91%
産業廃棄物排出量	t	600	564	94%	558	93%	552	92%	546	91%
用水使用量	m ³	60	56.4	94%	55.8	93%	55.2	92%	54.6	91%
環境に配慮した製品・工法の推進	件	全現場	全現場		全現場		全現場		全現場	
社会貢献活動	件	10	16	+6件	17	+7件	18	+8件	18	+8件

※電力のCO₂排出量については、電気事業者別のCO₂排出係数(2023年度実績)

(2024年9月27日公表)の四国電力の調整後排出係数(0.464 kg-CO₂/kWh)を使用した。

○環境に配慮した製品・工法の推進

- ・丁張設置時の木材使用の削減の為、ICT技術を活用。 ・ソーラー発電式の点滅灯の使用。
- ・コンクリートレイタス処理時に出る濁水対策としてレイタス処理剤の使用。
- ・河川等の工事で出る濁水防止対策にろ過タンクの使用。
- ・植物等を保護し環境に配慮した施工の推進 ・植生工の種子に在来種の使用。
- ・工事看板、木製型枠に間伐材の使用。

6. 環境経営計画 (2024年度)

2024年8月1日～2025年7月31日

項目	取組内容	実施担当者
電力使用量の削減	空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃） 空調を必要な区域・時間に限定 窓ガスに断熱フィルムの貼付 断熱性のある外壁、屋根への補修 照明の適正化、昼光の利用、スイッチの適正管理 夜間休日は、PC・プリンター等の主電源を切る	高橋恵子
重機・機械燃料の二酸化炭素排出量削減	効率的なルートで配送 現場別事業活動の見直し アイドリングストップ 急加速・急停車の防止 ICT技術を活用し重機作業の効率化 バッテリー式電動工具の使用	井関和仁
一般廃棄物の削減	分別の徹底 会議用資料や事務手続書類の簡素化 両面印刷、両面コピーを徹底 電子メディア等の利用によるペーパーレス化	川田博史
産業廃棄物の削減	素材別ボックスの設置 リサイクル業者の開拓 作業ミスによる廃棄量の削減 現場発生支障木の有効利用による廃棄量の削減	高橋伸幸
水使用量の削減	節水シールの貼り付けとポスター掲示 水道配管からの漏洩を定期的に点検 節水型トイレへの交換	高橋伸幸
環境に配慮した製品・工法の推進	丁張設置時の木材使用の削減の為、ICT技術を活用 ソーラー発電式の点滅灯の使用 コンクリート養生に断熱板、被膜養生剤の使用 コンクリートレイタス処理時に出る濁水対策としてレイタス処理剤の使用 河川等の工事で出る濁水防止対策にろ過タンクの使用 現場周辺の植物等を保護し環境への配慮 植生工の種子に在来種の使用 工事看板、木製型枠に間伐材の使用	高橋伸幸
社会貢献活動の推進	ロードボランティアの実施 会社周辺の清掃 自治体の環境美化活動への積極的な参加	川田博史

7. 環境経営目標の実績 (2024年度)

(1) 単年度目標

	単位	基準値 (2010年～2019 年の平均値)	2024年8月～2025年7月		実績	達成率 実績/目標(%)
			目標	基準値比		
電力使用量	kWh	8,750	8,313	95%	7,320	88%
ガソリン使用量	ℓ	6,240	5,928	95%	4,235	71%
軽油使用量	ℓ	25,000	23,750	95%	22,556	95%
灯油使用量	ℓ	870	827	95%	882	107%
LPG使用量	kg	5.0	4.8	95%	3.0	63%
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	90,000	85,500	95%	74,524	87%
一般廃棄物排出量	kg	170	162	95%	141	88%
産業廃棄物排出量	t	600	570	95%	33	6%
用水使用量	m ³	60	57	95%	48	84%
環境に配慮した製品・工法の推進	件	全現場	全現場	全現場	全現場	全現場
社会貢献活動	件	10	15	+5件	14	-1件

注)社会貢献活動…ロードボランティア、自治体の環境美化活動への積極的な参加

※電力のCO₂排出量については、電気事業者別のCO₂排出係数(2023年度実績)

(2024年9月27日公表)の四国電力の調整後排出係数(0.464 kg-CO₂/kWh)を使用した。

年 度	2010	2011	2012	2013	2014
売上高	160	203	192	181	180
CO ₂ 排出量	113	94.1	104.2	101.9	74.7
t-CO ₂ /百万円	0.706	0.464	0.543	0.563	0.415

年 度	2015	2016	2017	2018	2019
売上高	207	190	236	154	237
CO ₂ 排出量	93.5	97.2	82.0	78.5	108.3
t-CO ₂ /百万円	0.452	0.512	0.347	0.510	0.457

年 度	2020	2021	2022	2023	2024
売上高	138	205	238	402	172
CO ₂ 排出量	75.1	108.9	91.2	95.0	75.0
t-CO ₂ /百万円	0.544	0.531	0.383	0.236	0.436

8. 環境経営計画の取組結果とその評価

(2024年度)

□ 取組内容と実施状況

2024年8月1日～2025年7月31日

項目	取組内容	実施担当者	取組結果	評価
電力使用量の削減	空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃） 空調を必要な区域・時間に限定 窓ガラスに断熱シートの貼付 照明の適正化、電光の利用、スイッチの適正管理 断熱性のある外壁、屋根への補修 夜間休日は、PC・プリンター等の主電源を切る	高橋恵子 事務所の窓ガラスに貼付している。 事務所外の壁、屋根の補修を行っている。 全社員に通達し実施している。	全社員に通達し実施している。 全社員に通達し実施している。 暖気運転時以外には、エンジン停止を実施している。 全社員に通達し実施している。 3次元設計データを活用し作業の効率化を行っている。 発電機使用によるカソリンの使用を削減している。 全社員に通達し実施している。	事務所の外壁補修により断熱効果が期待される为空調機の使用時間の短縮及び温度の適正化を行った。機器の主電源を切る事や、照明をこまめに消す等し、目標達成に向けて全社員が節電に取り組み、今後も維持継続すること。
重機・機械燃料の二酸化炭素排出量削減	効率的なルートで配達 現場別事業活動の見直し アイドリングストップ 急加速・急停車の防止 ICT技術を活用し重機作業の効率化 バッテリー式電動工具の使用	井関和仁 川田博史	全社員に通達し実施している。 暖気運転時以外には、エンジン停止を実施している。 全社員に通達し実施している。 3次元設計データを活用し作業の効率化を行っている。 発電機使用によるカソリンの使用を削減している。 全社員に通達し実施している。	工事の受注件数や内容により増減する事があるが、作業方法を検討しICT技術等を積極的に活用し建設機械等の燃料使用量の削減に努めること。電気工具はバッテリー式の電動工具を取り入れ発電機の使用を削減し、ガソリンの使用削減を今後も継続すること。灯油の使用は天候により増減する事があるが、削減に努めること。
一般廃棄物の削減	分別の徹底 会議用資料や事務手続書類の簡素化 両面印刷、両面コピーを徹底 電子メディア等の利用によるペーパーレス化	高橋伸幸 川田博史	発注者の協議文書を電子メール、情報共有システムで行っている。 全社員に通達し実施している。 発注者との協議文書を電子メールで行っている。 全社員に通達し実施している。	工事書類は情報共有システムを積極的に活用し、資料等のペーパーレス化等を図り今後も維持継続すること。
産業廃棄物の削減	素材別ボックスの設置 リサイクル業者の開拓 作業ミスによる廃棄量の削減 現場発生支障木の有效利用	高橋伸幸 川田博史	産業用収集ボックスを置けるスペースのある場合は設置する。 地元業者優先とするため、なるべく近い業者と取引する。 全社員に通達し実施している。 地域の方に活用してもらっている。	施工条件や発注者の指示により変わることがあるが、再利用可能な物や有効活用できる物は現場で利用し、木材等は地域の方にも活用してもらい産業廃棄物の削減に努めること。
水使用量の削減	節水シールの貼り付けとボスター掲示 水道配管からの漏洩を定期的に点検 節水型トイレへの交換	高橋伸幸 川田博史	事務所及び倉庫に節電節水ボスターの掲示をしている。 事務所トイレを節水型に交換している。 全現場でICT技術を積極的に活用している。	引き続き定期点検を行い目標達成に向けて、全社員が節水に取り組むこと。
環境に配慮した製品・工法の推進	丁張設置の木材使用削減の為、ICT技術の積極的活用 コンクリートレイクンス処理剤の使用 レイクンス処理剤の使用 年1回の浄化槽の保守点検、清掃実施 コンクリート養生に断熱板及び被膜養生剤の使用 電力削減の為、ソーラー発電式の点滅灯の使用 河川付近掘削時に出る濁水対策を行っている 工事看板、木製型枠に間伐材の使用 現場周辺の植物等を保護し環境への配慮	高橋伸幸 川田博史	全現場のソーラー発電式の点滅灯を使用している。 濁水を排出しないように、レイクンス処理剤を使用している。 河川等の工事で出る濁水防止対策にろ過タックを使用している。 コンクリート養生に断熱板、エアーマット、被膜養生剤を使用している。 現場周辺の植物をアブリ等を活用し調査している。 植生工の種子に在来種を使用している。 全現場の工事看板、型枠に間伐材を利用している。	工事内容に関係なくICT技術等を活用し、丁張等の木材使用の削減に引き続き取り組む事。コンクリートレイクンス処理は、河川付近では特に処理剤を使用し濁水対策を行う事。コンクリート養生においても、被膜養生剤・断熱板等を使用していくこと。場周辺の植物等を調査、保護し環境への配慮を行っていくこと。電気類はソーラー発電式の製品を積極的に取り入れる事。看板、型枠以外でも間伐材の利用できる物については間伐材を利用する事。
社会貢献活動の推進	ロードボランティアの実施 会社周辺の清掃 自治体の環境美化活動への積極的な参加	川田博史 7月地区の一斉清掃	建設協会実施の佐助い、自社指定箇所の草刈り、清掃。 草刈りを実施。(ロードボランティア活動に参加すること)。	ロードボランティア活動計画書等に準じて実施し、全社員が積極的に新たなボランティア活動にも参加すること。

9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

9-1次年度の環境経営目標

環境経営目標はP.5中長期環境経営目標の記載の通り。

9-2次年度の環境経営計画

2024年8月1日～2025年7月31日

項目	取組内容	実施担当者
電力使用量の削減	空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃） 空調を必要な区域・時間に限定 照明の適正化、昼光の利用、スイッチの適正管理 夜間休日は、PC・プリンター等の主電源を切る	高橋恵子
重機・機械燃料の二酸化炭素排出量削減	効率的なルートで配送 現場別事業活動の見直し アイドリングストップ 急加速・急停車の防止 ICT技術を活用し重機作業の効率化 バッテリー式電動工具の使用	井関和仁
一般廃棄物の削減	分別の徹底 会議用資料や事務手続書類の簡素化 両面印刷、両面コピーを徹底 電子メディア等の利用によるペーパーレス化	川田博史
産業廃棄物の削減	素材別ボックスの設置 リサイクル業者の開拓 作業ミスによる廃棄量の削減 現場発生支障木の有効利用	高橋伸幸
水使用量の削減	節水シールの貼り付けとポスター掲示 水道配管からの漏洩を定期的に点検	高橋伸幸
環境に配慮した製品・工法の推進	丁張設置時の木材使用の削減の為、ICT技術を活用 コンクリートレイターン処理時に出る濁水対策としてレイターン処理剤の使用 コンクリート養生に断熱板、被膜養生剤の使用 ソーラー発電式の点滅灯の使用 河川等の工事で出る濁水防止対策にろ過タンクの使用 植生工の種子に在来種の使用 施工前に現場周辺の植物調査 施工時に現場周辺の植物等を保護し環境への配慮 工事看板、木製型枠に間伐材の使用	高橋伸幸
社会貢献活動の推進	ロードボランティアの実施 会社周辺の清掃 自治体の環境美化活動への積極的な参加	川田博史

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1)当社に適用となる主な環境関連法規等

法律名	遵守すべき行動	遵守状況	
廃棄物処理法	産業廃棄物マニフェストの管理 産業廃棄物処理計画書 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 産業廃棄物運搬時の表示、書類携行 多量排出事業者(年間1000 t 以上)	遵守	○
資源有効利用促進法 (改正リサイクル法) (資源の有効な利用の促進に関する法律)	(特定再利用業種) 再生資源利用計画書提出 (指定副産物) 再生資源利用実施書提出 (排出者の役割) 指定再商品化製品（ノートブックパソコン、ディスプレイ、デスクトップ本体）について、事業者（製造業者及び輸入販売業者）の自主回収、再資源化に協力	遵守	○
建設リサイクル法（建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律）	対象建設工事受注時に書面作成(分別解体計画届出書)し、発注者に説明	遵守	○
騒音規制法	特定建設作業実施の届出 地域別騒音基準の順守	遵守	○
振動規制法	特定建設作業実施の届出 地域別振動基準の順守	遵守	○
排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程	小型バックホウ、バックホウ、トラクタショベル、ブルトーザ、発動発電機、空気圧縮機、油圧パワーユニット、ロードローラ、タイヤローラ等対策型ステッカー貼付の建設機械使用	遵守	○
低騒音型・低振動型建設機械の普及促進に関する規程	ブルトーザー、バックホウ、トラクターショベル、バイプロハンマー、削岩機、コンクリートカッター、空気圧縮機、発動発電機 等 対策型ステッカー貼付の建設機械使用 (低振動型) バイプロハンマー、バックホウ 対策型ステッカー貼付の建設機械使用	遵守	○
道路交通法	道路占用許可申請書	遵守	○
道路法	道路使用許可申請書	遵守	○
道路運送車両法	日常点検整備・定期点検整備 点検整備記録簿を当該自動車に備え置く	遵守	○
浄化槽法	設置の届出(市町村設置型) 年1回の浄化槽の保守点検、清掃実施 年1回の水質検査の実施	遵守	○
四万十川条例	土地の形状の変更・天然林の伐採時届出	遵守	○
高知県四万十川流域環境配慮指針	土地の形状の変更・天然林の伐採時届出	遵守	○
津野町景観条例	土地の形状の変更・天然林の伐採時届出	遵守	○
津野町魚族保護会	河川施工の届出(工事用排水処理設備等)	遵守	○
オフロード法	現場持ち込み時に排ガス基準適合表示ステッカーで確認	遵守	○
フロン排出抑制法	簡易点検 3ヶ月に1回以上 ・定期点検 1年に1回以上(専門業者が実施)	遵守	○

(2)違反・訴訟等の有無 (2025年8月8日)

- ・2024年8月1日～2025年7月31日の間、自社の事業活動に関する法令違反、何らかの苦情、関係機関からの違反等の指摘はなく、訴訟もありません。

11. 代表者による全体の評価と見直し・指示の結果

■定期見直し（事業年度終了後）	代表者	環境管理責任者
□臨時見直し	高橋	川田
実施日： 2025年8月8日		

見直しに必要な情報			代表者による見直し
管理責任者の報告及び改善への提案			変更の必要性の有無・指示事項
[取り組み状況の評価結果] <p>①環境関連法規制等の遵守状況（環境関連法規等順守記録による） 環境関連法規制や条例等の違反、訴訟はなかった。</p> <p>②問題点の是正処置及び予防処置の状況 是正・予防処置はなかった。</p> <p>③前回までの代表者の指示事項への対応 ICTを活用し作業の効率化を行った。 ガソリン・軽油・の削減に取り組みCO2削減に努めた。</p> <p><改善への提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド車への交換 低燃費機械の導入 			[環境経営方針] <p>変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p> <p>・生物多様性に配慮していくこと。</p>
[目標・環境経営計画の達成状況] (詳細は環境活動計画書による)			[目標・活動計画] <p>変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>
目標項目	目標値達成状況	活動計画実施状況	コメント（目標値に対するコメント・活動計画に対するコメント）
環境に配慮した工法の推進	○	○	ICT技術等を活用し、建設機械の軽油及び丁張等の木材の削減に引き続き取り組むこと。現場周辺の植物等を調査し、環境への配慮を行っていくこと。電気類はソーラー発電式の製品を積極的に取り入れること。看板、型枠以外でも間伐材の利用できる物については間伐材を利用すること
電力・自動車等燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減	○	○	工事の受注件数や内容により増減する事であるが、作業方法を検討しICT技術等を積極的に活用し建設機械等の軽油使用量の削減に努めること。電気工具はバッテリー式の電動工具を取り入れ発電機の使用を削減し、ガソリンの使用削減を今後も継続すること。灯油の使用は天候に応じて削減するが削減に努める
水、紙等、資源やエネルギーの使用量の低減	○	○	工事書類は情報共有システムを積極的に活用し、資料等のペーパーレス化等を図り今後も維持継続する事。事務所トイレや洗面台等の漏水点検を引き続き行うこと。
廃棄物の排出量を削減し、再利用及びリサイクルの推進	○	○	現場内容により排出量は変わる事であるが、現場での有効利用を検討し排出量を削減して行くこと。産業廃棄物の処理は適切に処理しているので引き続き処理して行くこと。
ロードボランティア活動等、地域環境の向上に参加	○	△	ロードボランティア活動は除草作業やゴミ拾いを継続し行っている。又地域の清掃活動にも参加している。現場周辺地域の除草作業や清掃活動にも取り組んで行くこと。
<p><改善への提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド車への交換 低燃費機械の導入 			
[周囲の変化の状況] <p>①外部コミュニケーション記録より 外部よりの苦情等はなかった。</p> <p>②環境関連法規制等の動向他 環境関連法規制や条例等の改定はなかった。</p> <p><改善への提案></p> <p>○:目標値達成、△:目標値±15%以内、×:目標値±30%以上</p>			[実施体制] <p>変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p> <p>・車両買い替え時はハイブリッド車へ交換。 ・エコアクション21はシステムとして有効に機能している。</p>
[総括] (環境活動レポートの代表者による全体の評価と見直しの欄に記載)			
ICT技術が定着し作業の効率化によるガソリン・軽油の削減に取り組んでいる。工事の受注件数は昨年と変わらないが、工事1件当たりの規模が小さく、ガソリン・軽油の使用量が少なくなったが、施工方法を検討し削減に努める。バッテリー式の電道工具を使用し発電機の使用削減、現場設備品等はソーラー発電式の物に交換しCO2の削減を行う。産業廃棄物は現場で有効利用できる物については利用し削減していく。工事書類等は情報共有システムを利用し電子化によるペーパーレス化を継続して行う。新技術への積極的な取り組みや工夫による作業の効率化を図り、エネルギーの使用量の低減、資源の再利用に努力する事でエコアクション21へ取り組んで行く。			

12. 環境配慮工事の事例



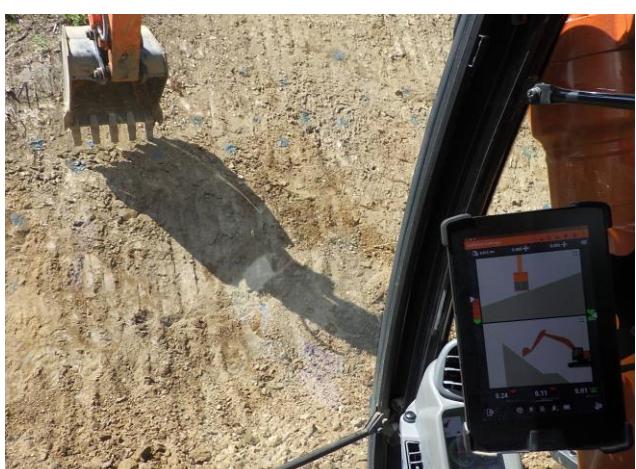
国道439号道路改良工事

夜間の安全対策 ソーラー発電式の点滅灯の設置。



国道439号道路改良工事

濁水対策としてコンクリートレイターンス処理剤の使用



国道439号道路改良工事

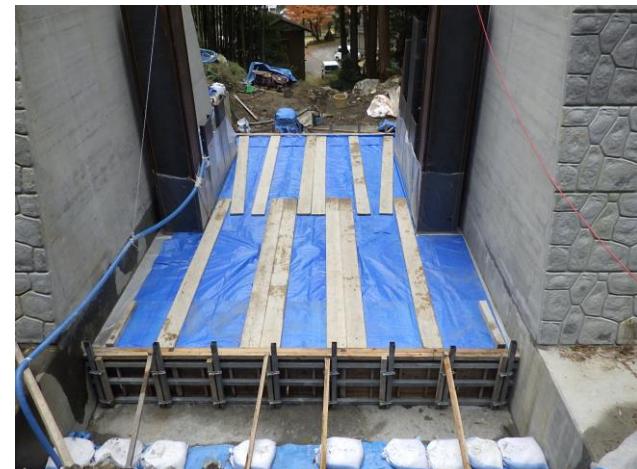
ICT建機を使用し作業の効率化による軽油使用量の削減

12. 環境配慮工事の事例



国道439号道路改良工事

植生工の種子に在来種の使用



犬ヶ谷通常砂防工事

エアマットとブルーシートによるコンクリート養生



ロードボランティア